

氏名	宇 埜 昭
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 205 号
学位授与の日付	昭和41年 9 月30日
学位授与の要件	医学研究科外科系産科婦人科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	月経異常患者の尿中 17 - Ketosteroid 分画に関する研究
論文審査委員	教授 橋 本 清 教授 浜 本 英 次 教授 小 川 勝 士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Androgen, Estrogen などの性 steroid hormone は量的な相違はあるが、副腎、卵巣、睪丸のいずれからも分泌されることが明らかとなって来た。女性の性周期変動には Estrogen, Progensterone が重要な役をなすが、最近では副腎、卵巣原性の Androgen の影響も注目されるようになり、従来よりの尿中 Estrogen の定量のみならず、尿中17-K S の測定の必要が認められて来た。内分泌学の発達により性 steroid hormone も分画測定が可能となり、17-K S についても性腺機能と特定の分画値の変動の関係が論議されるようになった。しかしながら、尿中に排泄される 17-K S は生体内すべての steroid 産生臓器よりの分泌の和であるから、総値或は分画値の測定を行なっても、性腺機能異常は発見しがたい。これに対して Netter により提唱された Dynamic test, 或は吉田により発表された、17-K S の特定の分画と総 17-K S 値に対する比率による判定法が有用である。

著者は性腺機能に異常を有すると考えられる月経異常の症例につき、性腺機能とその障害の関係を知るために32例の月経異常を有する患者及び19例の正常増殖期婦人の尿中総 17-K S 値、17-K S 分画値の測定及び 15 例の月経異常患者に Dynamic test を行なったときの、それらの値を測定し、性腺機能と測定値或はそれらの ratio との関係を検討し以下の如き結果を得た。

- 1) 月経異常患者においては、尿中総17-K S 値には、性腺機腺異常に関係した特異性は見られない。
- 2) 同上患者群において尿中17 K S 分画値を求めて検討を行なっても、性機能との明確な関係は認め

がたい。3) しかしながら、Androsterone/total 17-K S 及び DHA/total 17-K S の比について検討したところ、月経異常群中に、代謝異常を有すると見られるものが相当数、認められた。4) 更に Dynamic test を行なうと、異常の傾向を示すものが、更に判然と選ばれて来ることが判明した。今後、性機能異常の判定を行なうにおいては単なる総値の測定や、分画の測定を行なうだけでは不充分で 1) ratio をとるとか、2) Dynamic test を行なう必要がある。

岡山医学会雑誌 第78巻 第7号 昭和41年7月31日に掲載予定

論文審査の結果の要旨

宇埜昭提出の「月経異常患者の尿中 17-Ketosteroid 分画に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

女性に於ける性周期の変動には卵巣より分泌される女性ホルモンの他に、卵巣及び副腎より分泌されるアンドロゲンの影響も重要視されるに至った、著者は原発無月経その他各種の月経異常例について尿中 17-K S 総量及びこれを10分画に分けて各分画値を求めた。単にこれらの数値だけでは健常例との間に特別の差違を認め得なかったが、Netter のいわゆる dynamic test 即ち、Dexamethasone による副腎抑制、Gonadotrophins による卵巣刺激による変化か、或は androsterone ratio として androsterone/total 17-K S DHA/total 17-K S を求めると明らかに異常代謝値を示すものが見出された。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有するものと認める。